

第6回 鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日時 令和2年6月3日（水） 15時00分～

場所 市水道会館3階 大会議室

出席者 委員14名、関係課・事務局職員6名

欠席者 委員0名

傍聴者 2名

報道関係者 1名

概要

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 第5回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要について、事務局から説明を行いました。

(2) 「鳴門市公立幼稚園のあり方について【中間報告】」修正（案）概要について、事務局から説明を行いました。

(会長)

前回審議会の議事からの項目の追加や一時預かり事業に関連した文言の修正があったが、委員の皆様からの質問はないか。

(委員)

利用定員を超える希望があった場合の取扱について、想定以上の超過があった場合にはどうするのか。

(事務局)

県内他市については、超過する状況にないため、特に選考基準を設けていないところが多いようである。本市においても、現在の幼児数の推移を考えると超過する状況にはなく、連携小学校区の子どもたちは全員幼稚園に通うことができていると考えているが、万が一に備え、入園募集を行うまでに、何らかの基準を設けることを事務局で検討していく。

(会長)

とても大切な視点である。他県では、通園距離や身体的な条件を基準の一つにしているところもある。保護者に納得してもらうためにも、はっきりとした基準を示すほうがよい。

(委員)

令和3年度に閉園予定の幼稚園に入園したものの、令和4年度に年長となり途中で転園することになる。今までにはなかった園児の動きが起こる。この時の対応はどのようなのか。

(事務局)

可能性としては様々な場合が想定されるが、現段階では再編後の設置園において定員を超過する可能性は少ないと考えている。しかし、そのような状況にも備えられるよう、今後検討していく。

(委員)

一時預かり事業についての文言の修正があったが、現状を継続すると考えてよいのか。

現在、土曜預かりを行っている4園以外に、土曜預かりを増やすことはないのか。

(事務局)

一時預かり事業は全ての幼稚園にて実施すると記述しているが、土曜預かりについては現在の4園で引き続き実施する予定である。より正確な記述となるように整理させていただいた。

(委員)

土曜預かりは幼稚園教職員の負担となっているので、教職員の立場としてはありがたい。

しかし、再編後には、保護者が幼稚園を選択する際の大きな要因になると考える。入園募集の際には、保護者にきちんと説明するようにしてほしい。

(委員)

大麻町内に堀江北幼稚園が追加されたことで、板東幼稚園の園児数が減るといった可能性はないか。

(事務局)

鳴門市全体の幼稚園の適正配置の観点から、大麻町には板東幼稚園を置くと判断したものであり、その考え方については今後も変更は無い。

堀江北幼稚園については、経過的措置として継続設置としたが、今後園児数が減少し混合学級編成が続く際に再編を検討するとしており、板東幼稚園を残すこととの意味合いとは、基本的に違うと考えている。

(会長)

前回の審議会資料から、明らかに堀江地区が空白になっていることが課題となっていたことに対応して、堀江北幼稚園が経過的措置として置かれるよう変更された。市内全域を公立幼稚園がカバーしているということは、これまでも鳴門の良さであったことから、現実的な判断だと思われる。今後は、より一層就学前施設と小学校との連携等が課題となってくる。

(委員)

保育園やこども園から幼稚園へ進む際や、途中での転園などについてはどう考えているのか。

(事務局)

基本的には、幼稚園は一年ごとの募集と考えている。入園枠が空いていれば転園は可能である。

(3) 意見交換

(委員)

資料に示している「生きる力の基礎」のイメージ図の中の吹き出しの文言が、項目によって表現が違ふことが気になる。「生きる力」については文科省の文言を用いているようだが、「生きる力の基礎」はどこから引用した文言か。吹き出しにより説明を加えるのであれば、内容について協議し、正確な記述が必要ではないか。

(事務局)

イメージ図内の項目を説明する文言を、文科省等のホームページを参照にして記述したものであるが、かえって定義が不明瞭になっているとも考えられるため、吹き出しの部分については削除することで対応させていただきたい。

(会長)

今回はその対応でよいと思う。

(委員)

これまでの審議を経て、幼稚園再編はやむ無しと考えるが、幼稚園がこれまで大切にしてきた地域とのつながりやふれあいの機会などのよい伝統は残してほしいと思う。

(委員)

現在の幼稚園の状況を改善するためには、この機会に園を集約するなどの思い切ったことをしなければいけないと思う。しかし、集約することで、今までと違うことが入園時や小学校入学時には起こりえる。今後についても、保護者や子どもたちのことを最優先に考えてほしい。

(委員)

園児数の推移を見ると里浦地区はまだ多いが、市全体として考えた上で閉園とすることとなった。閉園対象となった地域の方々の心情を察すると、本審議会は大きなことを決めているとつくづく実感している。

(委員)

公立幼稚園の再編により、小学校への入学の際に、一旦親しくなった友達と離れる等の心配があるなど、子どもの気持ちを考えることも大切だとは思いますが、それ以上に子どもの成長や学びが得られるメリットが感じられる再編となればよいと思う。また、そのようなことを保護者にも伝えていってほしい。

(委員)

幼稚園現場の思いを受け止めた上での再編計画にさせていただいたことを感謝している。幼稚園から小学校へ進学した際の不安についても、今回示されたコミュニティスクールなどの新しい取組により、各就学前施設と小学校がつながるような仕組みを取り入れ、解消ができるのであればよいと思う。

どの園でも地域との交流を残してほしいという思いが強い。例えば、具体的に持ち物や制服など、今まで当たり前だった小さなことをどうしていくのかということについても、地域の方などとも話し合いをしなければいけない。すぐそこまで、様々なことを決めなければいけない時期が迫っている。現場の職員も一緒に考えていきたい。

子どもたちにとってよりよい幼稚園再編にしていきたい。

(委員)

どのような再編になるにせよ、いくつかの問題が出てくると思う。小一プロブレムや立場の違いによるトラブルが少しでも解消していけるように体制を整えていくことが大切であり、これからも引き続き考えていかなければならない。

(委員)

生活様式が変わっていく中で、子どもたちにとって、これからの学びの場が良いものであり楽しい場所となる公立幼稚園を含めた就学前教育・保育施設になれば良いと思う。

(委員)

再編してなくなる幼稚園の保護者の方にとってみれば、やはり送迎等の負担は大きいと思う。しかし、園児数の推移などから再編せざるを得ないのは事実なので、相談窓口などでのサポートなど柔軟な対応をお願いしたい。

幼稚園再編と同時に、小学校との連携等についても考えており、とても重要な論点だと思う。

(委員)

この度は、教育振興計画という大きなものに関わらせていただいた。子ども達がのびのびと成長し、教職員の資質が向上するなど、この計画で良かったと思える公立幼稚園の姿にしてほしい。

(委員)

今回の修正案で、前回の課題であった堀江北幼稚園が残ることで空白となっていた箇所がなくなり、公立として市内の子どもたちの学びを保障する側面からもよかったと思う。

幼稚園再編により子どもたち、教職員ともに適正な規模になることで、質の高い幼稚園教育が生まれる。今後はその上に、就学前教育・保育施設との連携が必要になる。アプローチカリキュラムやモデルカリキュラムなどの導入も含め、市として継続して考えていかなければならない事柄ではないか。

(委員)

第1回目の審議会から「鳴門市の子どもたちの幸せのための再編」ということを念頭に置いて考えてほしいと訴え続け、委員の皆様と一緒に審議会でよりよい公立幼稚園のあり方を考えてきた。現場の状況を考えると、できるだけ早く教職員の体制を整えて、教育の質を高めることができればと願っている。

素案の中に「今回の幼稚園の再編にあたっては、将来に渡って持続可能な、質の高い幼稚園教育を推進していくために、本市全体の公立幼稚園の適正規模・適正配置を検討した上で、望ましい幼稚園の配置を定めるという視点での再編であり、「既存園の整理・統合」という考え方に立つものではありません。」という言葉がある。これが本当に大切で、市民の皆様と共通理解したい。

出身園・校が再編によりなくなると、ふるさとがなくなったような寂しさを感じることもあるが、現場で子どもたちに関わっていると、やはり子どもたちが適正な人数で集団での学びを得られ、成長できる方が良いと思う。そういう意味からも再編は必要であると思う。

保護者は、子どもが「幼稚園で楽しかった」と言ってくれる幼稚園を望んでいる。今後は現場の先生方が、保護者からの理解を得られるような、特色ある園づくりに尽力できるような環境にしていかなければならない。

(委員)

再編が目の前に来たことを実感している。

その中で、一人ひとりの子どもがよりよく成長できる環境作りのための再編であってほしいとも考えている。この審議会で話し合われたことや素案内容、そしてよりよい幼稚園にしたいという意気込みを、しっかりと現場の先生方にも伝えてほしいと思う。

若い先生方が離職することが多いようだが、先生方が保育の醍醐味である、子どもと一緒に成長するような経験をする機会が少ないように思う。若い先生方が、保育の楽しさやおもしろさ、子どものかわいさを十分に理解できるよう、子どもと共に育っていく環境作りが大切である。そのためには、管理職や中堅が元気で前向きに取り組むことが大切である。熱い気持ちで保育ができる環境が再編によって実現することを願っている。

(会長)

これから公立幼稚園は再編に向けて過渡期となり、保護者・地域の皆様からは様々な不安などが出てくる可能性もある。また今後、議会やパブリックコメントの手続きを経て形が変わることもありうるが、基本的にこの素案をもって審議会としての考えとしたい。

阪神淡路や東日本大震災後の地域にとって、復興に向かう新たな原動力は子どもであった。そのことから、子どもが地域との関わりを深める手立てとして、今後の学校の一つの形であるコミュニティスクールの導入は意義深い。徳島県では、学校と地域との交流は行っているが、子どもたちが地域行事の中で主体的に役割を担っているとの意識が少ないのではないかと感じている。やらされている感が強く、行事のための子ども活用となってしまっている。この機会に、地域が積極的に学校・幼稚園教育に参画するとともに、子どもの意見や考えを取り上げることができる仕組みが実現すれば、地域コミュニティの拠点としての幼稚園や学校の存在がますます大切なものと認識されてくる。

今後は、保護者が個人の都合や通勤の利便性、幼稚園の雰囲気などにより幼稚園を選択するようになり、幼稚園に保護者と地域の厳しい目が入ってくる。再編とはそういうものであり、教員にとっては厳しい面もあるが、混合学級が減り、教員の労力を教育の質を向上させるほうに使うことができるチャンスでもあり、前向きに捉えてもらいたい。

これから、この素案をパブリックコメント等にかけることになるが、委員の皆様から内容に異議がある方はないか。

(委員)

特に無し

(会長)

では、今回の審議で修正の必要のあった箇所の確認については、会長に一任していただいてもよいのか。

(委員)

異議無し

(会長)

それでは、私のほうで確認し、承認した素案をもって、議会及びパブリックコメントで資料として使うこととする。

委員の皆様による、前向きな審議や忌憚のないご意見によりこのような素案を作ることができた。感謝申し上げます。

4. その他

今後のスケジュール等についての確認

今後、この素案を1カ月をかけて市民の皆様からご意見をいただくパブリックコメントにかけることになる。次回審議会では、パブリックコメントの結果を踏まえ、事務局にて修正した「案」についてご審議いただき、教育委員会への答申としたいと考えている。

第7回審議会の開催時期としては、8月上旬ごろを考えており、決まり次第、事務局より連絡をさせていただきます。

5. 閉会